

直筆一枚物

——手銭家所蔵資料紹介（四）——

佐々木 杏 里

（公益財団法人手銭記念館学芸員）

摘 要

出雲市大社町手銭家に伝来する俳諧資料の中から、直筆一枚物を紹介する。この資料は、大社における文芸活動の実態を見る上で、多くの示唆を与えてくれる貴重な資料である。

キーワード…一枚物、俳諧、狂歌、杵築文学、手銭記念館

はじめに

狂歌や俳諧などに絵を添え一枚の紙に摺られたものを、「一枚摺」という。一枚摺は、元禄期頃には既に作られていたが、寛政期を経て文化文政期以降、大流行した。

売り物としてではなく、仲間内で配るために作られたものが多く、（歳旦、春興、秋興、三節（歳旦吟、歳暮吟、春興吟を一組とした物）といった時候をテーマにしたもの、追善、祝賀、披露等々、多種多様な「一枚摺」がある。

手銭家蔵書資料でも約40点の「一枚摺」を確認している（2019年夏時点の点数）が、今回は「一枚摺」と同様の趣旨をもって、手書きで書かれた一枚物（「直筆一枚物」）を紹介する。

なお、所蔵する「一枚摺」についても、今後紹介していく予定である。

手銭家に伝来する「直筆一枚物」

作者不詳、年代不明な資料もあるが、ほぼ文化年間（手銭家五代有秀時代）以降の資料と考えてよいだろう。

日々庵浦安(広瀬春尚)、島重老、中臣典膳と手銭家とが極めて親しかったことはこれまでの調査から明らかになっているが、浦安、典膳、重老以外に、中西喜朝(十左衛門 三刀屋の人)からの資料が複数存在している。中西と手銭の関係については、今のところわかっていない。

島重老は杵築における和歌の重鎮であるが、狂号を持つほど狂歌を嗜んでいた事が、資料から具体的に見えてきた。狂歌を贈られていることから、当時の手銭家七代有頼、さの子らも狂歌に親しんでいたと推測できる。

従来、江戸時代後期の杵築文学において、狂歌については中臣典膳の名のみが上っていたが、当時の狂歌がどのように享受されていたのか、より深く研究すべきテーマのひとつとなるだろう。

「一枚摺」は、基本的に社中や連、文通などで募った複数の人々による作品を載せ、多くの人に配るために印刷されたが、「直筆一枚物」は、より個人的に親しい間柄でやりとりされていたものではないかと考えられる(同様の一枚物を複数枚書き、複数の人に送ったということも、当然あるだろう)。

手銭家からも、彼らに宛てて「直筆一枚物」が送られていた可能性は高く、そのような資料が今後、出る事を願う。

日々庵浦安は、手銭家五代有秀の没後、折々に追善の句文を寄せている他、何点が直筆の句文資料が存在するが、今回は「直筆一枚物」としては扱っていない。

〈凡例〉

概ね所蔵資料番号の順とし、通し番号をつけた。通し番号に続けて、分類(和歌、俳諧などの別)、所蔵資料番号(N_o)、資料寸法、資料情報(袋、挿絵など)、作者本名(地域)、製作年、翻刻の順に記した。

翻刻にあたり、私に句読点を補い改行も適宜改めた。概ね通行の字体にあらためたが、一部原本の表記を残した。

難読の箇所は□で示し、推定できる文字は「」で囲んだ。虫損により判読が困難な箇所には、文字数に見合うよう□で示し、その傍に(虫損)と付した。

落款はへで囲み、判読できた物については記した。参考のため、原本の図版数点を最後に示した。

〈翻刻〉

1. 俳諧

N_o T53312
寸法 縦16・7cm。横15・0cm。
作者 不詳
天保六年(1835)

天保六末のとし

歳旦

初春や梅の匂ひも障子越し

午のせいほ

よき小松買揃へけり年の市

春興

美しう空もみとりや花見月

右 樹亭 〈□亭〉印

2. 俳諧

No T53313

寸法 縦16・5cm。横22・0cm。

作者 中西十左衛門(三刀屋)

天保十三年(1842)

壬寅

歳旦

富を好むは人情の常なから、わけてはつあしたには

ことほき祝す事にそありける

福は内へ注連縄張りて宿の春

丑せいほ

俗中有雅

年木樵さくらは撰りて残しけり

春興

飴槽を干す日和ありうめのはな

右 鵲庵 喜朝〈鵲庵〉

3. 俳諧

No T535

寸法 縦14・7cm。横14・7cm。

直筆一枚物―手銭家所蔵資料紹介(四)―(佐々木杏里)

作者 不詳(杵築)⁽¹⁾

天保八年(1837)

天保八酉聖節

若君様不二の御面を頂戴し奉りて

格前に高し八雲のはつ霞

申歳尾

鐘をつくまでか急なり大三十日

春興 再度の盗難をのかれて春を迎えければ

手入した垣其假梅の花

右 清地

川苔〈川苔〉

4. 俳諧

No T542

寸法 縦20・4cm。横22・3cm。

作者 広瀬春尚(杵築)

聖節

今朝の春ことのうれしさ斗り也

歳梢

よいとしをとれと名残のこと葉かな

雪は豊年のふることをことほきて

日にあらた皆ふるとしの雪の花

すかの閑人日々庵〈浦安〉

直筆一枚物―手銭家所蔵資料紹介(四)―(佐々木杏里)

5. 俳諧

No T549

寸法 縦20.3cm。横34.3cm。

作者 広瀬春尚(杵築)

三元

初夢に黒白の馬を見てこの作あり

春駒や豊坂のほる鈴のをと

年尾

としの田の雪の案山子や老か友

前に荒神の翠松あり、御碕山東に聳えたり

峯高し琴弾鳥も松に来る

すか河のほとりなる真菅の翁

〈日々庵〉〈浦安〉

6. 俳諧

No T5511

寸法 縦21.2cm。横26.5cm

挿絵摺(花)

作者 中西十左衛門(三刀屋)

文政八年(1825)

乙酉のとし

歳旦

産神の松とおなし齢をちきる事の故ありけり神秘

にして述かたし

神松やつきぬ色香を花の春

申せいほ

各得其所といへる詩の題をさくりて

とし守るや猫は炬燵にとろく眼

春興

節客を野うめ限りにおくり梟

右

琴口主 喜朝 へへへ

7. 俳諧

No T5512

寸法 縦16.2cm。横25.8cm。

作者 不詳

寅歳旦

元朝やしと、露けき人の顔

丑年梢

月花に約せし事も世の塵芥にほたされことしもけふと

成ぬれば

暮にけりおもへはとしをふるはかり

春興

折も梅折らすもうめの姿かな

御祓の浦人 楽二へへ

8. 俳諧

No T571

寸法 縦14・8cm。横12・0cm

袋 三節／手錢雅君／井呑 松の舎

作者 千家清足²(杵築)

寛政十三年(1801)

辛酉歳旦

初空の色にしみけり人心

年の尾春たつ日

けふ春に成ても年のをしき哉

春興

ぬくもりの地にもそひしや梅の花

梢雨〈梢〉〈雨〉

9. 和歌

No T578

寸法 縦19・7cm。横26・6cm。

作者 田中数馬(杵築)

清年〈春乃や〉

春たちける日

けふといへば霞の袖をふりはへて天路のとりか春は来にけり

としのくれに

くれて行としはつれなくおもへとも老によはひをましてこそおけ

直筆一枚物―手錢家所蔵資料紹介(四)―(佐々木杏里)

追儼

ちはやふる人のこころに住鬼もやはれけりな鞆のひゝきに

10. 和歌

No T579-1

寸法 縦18・5cm。横13・9cm。

袋 万世者

挿絵摺(羽根つき)

作者 島重老(杵築)

重老

春立ける日よめる

春たちぬ國続くらし大神のいふきや四方にかすみそむらむ

誰も世をいはひはしむる言魂の幸はふ国に春は来にけり

としの暮に

月花の折ふし垣をこえく／＼てゆきこそとしのさかひなりけれ

11. 狂歌

No T579-2

寸法 縦18・5cm。横14・4cm。

挿絵摺(羽根つき)

作者 島重老³(杵築)

釣沖魚

年のはしめに

門まつ雪もはなかつち霞む目の正月に成にけるかな

としの終に

世にこゝろひかれぬ老かとし月もゆきやれ車のおしつめにけり

七十一のとしをむかへて

七鹿地にひとはのしまのおきなさへ紋付ころもはるはきにけり

12 和歌

No T58411

寸法 縦20・0cm。横13・9cm。

挿絵摺(老人に火鉢)

作者 島重老(杵築)

重老

春たちける日

ほのくゞと霞むを年のはつ日にて世にあふかるゝ今朝の春かな

年のくれに

足もなくゆくへもしらす行としのとゝむるあとやよはひなるらむ

けふこしてきのふ別れしとしなれと空さりけなくかすみぞめるゝ

よのみたれさるをよろこぶ哥とも

御代守るその家々の弓はしめためしはかりをひける春かな

たゝかひは叩へて隙ゆく駒にのみのりくらすらんものゝふの友

13 狂歌

No T58412

寸法 縦13・6cm。横19・0cm

挿絵摺(老人に火鉢)

作者 島重老(杵築)

釣沖魚

歳旦

うくひすの春の告口あけほのにはや乗越のひとへともなく

年の名のうしの角文字書そめを筆つきあひのもとつひにせむ

歳暮

としくれて気をもむ宿の餅つきにやあうめてたの春をまたるゝ

世の中物騒しう武家方の弓よ太刀よに大火矢の

ひやくゞ思ひしも音なく成て年の暮ければ

としはかりおしよせてくる家々はたゝとりやりの言葉たゝかひ

14 狂歌・和歌

袋 昔むしろ(蝶押印)

No T60411

寸法 縦17・6cm。横17・4cm。

挿絵摺(米と稲の葉?)

作者 島重老(杵築)

子日の松比古

元日の節分

せつふんと国土ゆたかにとし暮てあゝきみかよのけふの春部や

歳暮

人の身を旅籠いらすのとまりにて何ゆへいそく年のおあしそ

春興

葉子をなむる折ふし鶯もこゑはりあけてさゝ鳴そする

No T60412

寸法 縦17.6cm。横19.5cm。

挿絵摺(米と稲の葉?)

作者 島重老(杵築)

重老

春立ける日

かきりなき空の海にも来なみの水際はありて春やたつらむ

世とともに尽ぬ岩井をむすふ手のあかすもいはふ今朝の春かな

としの暮に

来む春をいそかぬ老のこゝろにはとしのくるゝも長閑かりけり

15. 和歌

No T60811

寸法 縦17.7cm。横12.4cm。

袋 三節

作者 不詳

春たちける日 筆のこゝろみに徳義

ひきはへししもくの縄に音信て長閑に立るはるの初か是

いとなみのしけき中にもゆく年を、しむ心はわすれかねてき

直筆一枚物 | 手銭家所蔵資料紹介(四) | (佐々木杏里)

野へに出て引やふた葉の小松にもこもるは千代のみとり也けり

16. 俳諧

No T779

寸法 縦14.9cm。横14.5cm。

作者 不詳

未歳旦

初夢やうれしき事のみなすます

年尾

今すてにおしみしとしの名残かな

春興

梅も馬も相手にあそぶ物の内

右 風居(〽)風居(〽)

17. 俳諧

No T781

寸法 縦14.3cm。横12.5cm

作者 不詳

歳旦

升と秤甲乙もなし御代の暮

年尾

磯草を牛のまし荷やとしの市

春興

直筆一枚物―手錢家所蔵資料紹介(四)―(佐々木杏里)

草も樹も生立雨や百千鳥

右末の暮 養和亭・時調〈養和亭〉〈時調〉

18 俳諧

No T 857

寸法 縦18・4cm。横16・5cm。

作者 不詳

元旦

末広に鳥鳴けりあけの春

年暮

山の雪としにあしたかみゆる也

春興

長閑さや日南の草にむしひとつ

玉山〈順衛〉

19 俳諧

No T 924

寸法 縦17cm。横16・1cm

作者 不詳(杵築)

文化九年(1812)

文化九壬申聖節旧冬

旅より帰りにて

きのふ越へし山をうしろやけふのはる

歳末

中のよき隣もちけりとし忘れ

春興

梅か香を吹かさねたる日和かな

田柳舎 花押

20 俳諧

No T 925

寸法 縦19・3cm。横17cm。

作者 不詳

天保六年(1835)

天保六未の歳旦

初日の出軒より告るすゝめかな

午のせいほ

としの市にむめなかめ居る人もあり

春興

廣き野となりてあけたる雲雀哉

右 州濱拜〈州〉〈〉

21 俳諧

No T 926

寸法 縦19・3cm。横17cm。

作者 不詳

酉歳旦

一声に春を告げり初烏

申歳末

煤拂て寝心のよき夕部哉

春興

野の梅や所望して借男の手

右 女 なつ

22 狂歌

No 19

寸法 縦34・0cm。横47・0cm。

自画像付

作者 中臣典膳(杵築)

古史拔足

元日立春

きのふならおそれんものを節分の鬼千歯もなきはるの口哉

歳暮

かねをくれ米をくれしてくる、年大先生は乞食より増し

春興

若竹はちらく毛ほとはえそめてかすみ掬もの一川山

古史拔足

23 俳諧

No 26

直筆一枚物―手銭家所蔵資料紹介(四)―(佐々木杏里)

寸法 縦17・8cm。横24・2cm。

作者 中臣典膳(杵築)

万延二年(1861)

万延二辛酉

歳旦

元日や鯨追出す椀の中

せいほ

橙の安買嬉し年の市

春興

台所をことつかせけり梅の客

半漁者六村

24 俳諧

No 27

寸法 縦18・5cm。横25・6cm。

作者 中臣典膳(杵築)

安政六年(1859)

元旦節分

蓬萊の山うちこすや鬼の豆

年の暮に天気よかりければ

雪消てみてもしわすは師走哉

火燧柱にもたれて屋外を望む

かすまれに出てゆく人や小松原

25. 狂歌

安政己未 半漁翁六郎

No 28

寸法 縦17.8cm。横24.0cm。

作者 中臣典膳(杵築)

歳旦

六村の香々を囁む音に律の調べありと百年庵の感したまひしは過ぎし昔にて今年万延二辛酉元旦六十年の齢を保てる齒のひとつ抜けつるにつけてつらくおもひ返せば三絃の糸を切鮑の酢貝を嗜み春の花のあしたに口をすすぐ水のしむを覚え秋の月の夕に空豆のいり物を微塵になし翠張紅閨の枕に齒きりをなして短夜をたのしみ比翼連理の妹ありに巨燵のぬるきをかこてるも今此抜たる齒におもひ出されておかし

借錢の根のぬけたりと見し夢はさめて我が身のおくばみらるる

年内立春

年のうちに春はたてともせつかれてさるとりかたみの心地こそすれ

歳暮

年の暮毎に我草庵に五斗米をおくる友ありあめか下かに公易の沙汰ありて今年は米穀の値大江戸に異ならさりければとて、餅をつきてしたゝかにおこせるよろこひよみて遣わしける

四海浪治る御代の宝船ばはんにして来る年も有けり

古史拔足

(注)

- (1) 杵築の地を「清地」と呼ぶことについては、芦田耕一『江戸時代の出雲歌壇』(山陰研究ブックレット1 二〇一二)を参照のこと。
- (2) 「松の舎」は千家清足(1770~1851)の号。七十五代国造・千家俊勝の四男。
- (3) 資料57911と57912、58411と58412は、それぞれ同じ挿絵入りの用紙に同じ手跡で書かれていたことから、「沖釣魚」が鳥重老の狂号であるとして良からう。
- (4) 「田柳」の姓名は不詳だが、手銭家五代官三郎有秀らと月次連句会などに興じている資料が複数ある事から、杵築住であったと考えられる。

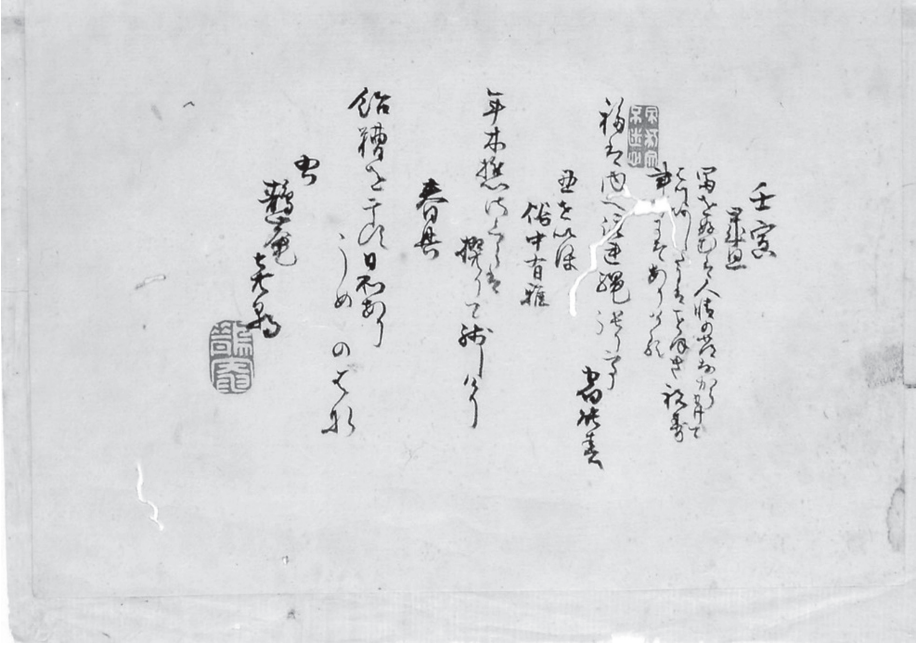
(付記)

本稿作成にあたっては、立正大学 伊藤善隆氏、鳥根県立古代出雲歴史博物館 岡宏三氏に多大なご助力、ご助言をいただきました。記して感謝申し上げます。

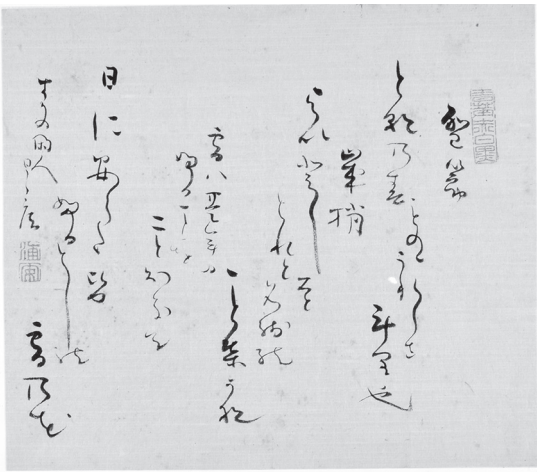
本稿は、山陰研究プロジェクト「山陰地域文学関係資料の研究」(二〇一六~二〇一八年度、研究代表者・野本瑠美)、同「山陰地域の文学・歴史関係資料の研究と活用に関するプロジェクト」(二〇一九~二〇二一年度、研究代表者・野本瑠美)による研究成果の一部である。

〈参考図版〉

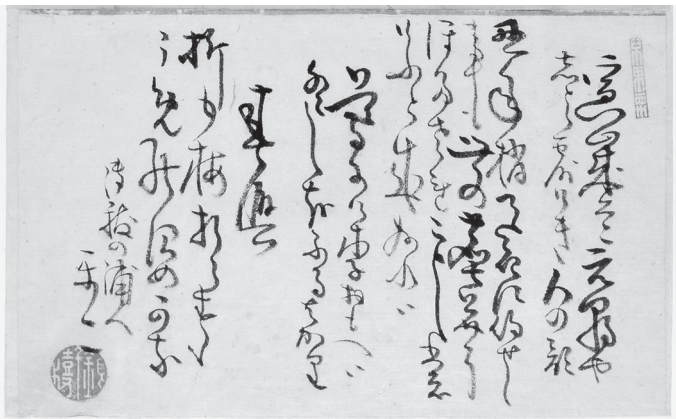
2 (No. T53313)



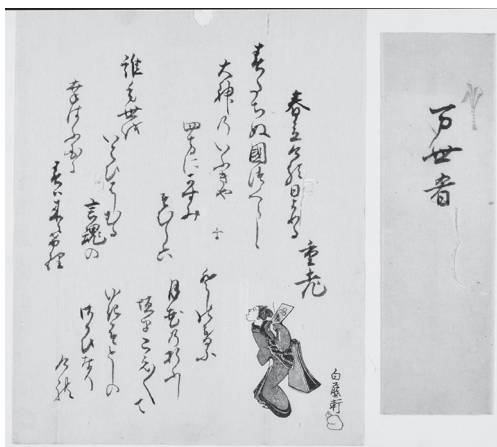
4 (No. T542)



7 (No. T55512)



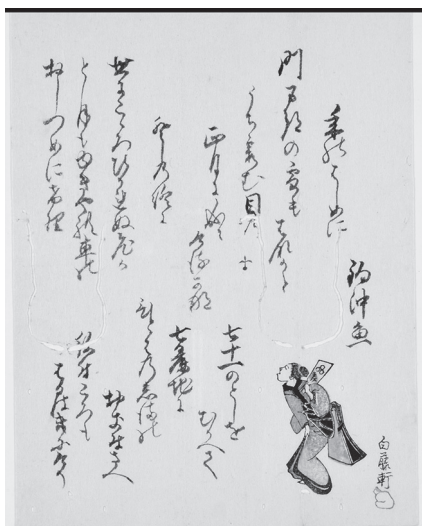
10 (No. T57911)



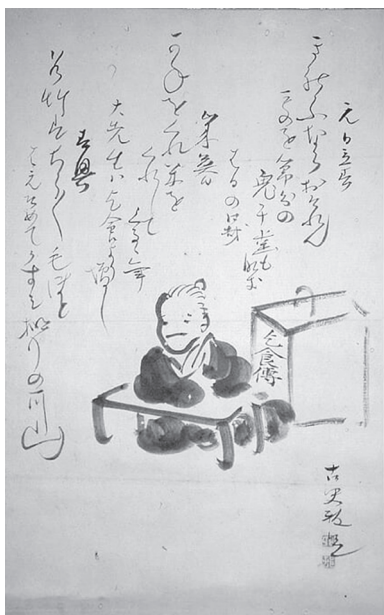
13 (No. T58412)



11 (No. T57912)



22 (No. 19)



“Jikihitu-Ichimaimono” — reprint and introduction ; Documents of Tezen Family Archives (4) —

SASAKI Anri
(Tezen Museum curator)

[Abstract]

To reprint and introduce “Jikihitu-Ichimaimono”. This material is a valuable resource that gives many suggestions when looking at the actual state of literary activities at Taisha.

Keywords : Ichimaimono, haikai, Kyoka, Kizuki-Bungaku, Tezen Museum